

「さ・い・た・ま・し」の子の育成 ～健全な食生活の実践を目指して～【さいたま市】

■団体の名称

さいたま市立宮前小学校

■連携している団体

子育て・教育支援団体・NPO
・企業・事業所・市内菜園農家

■背景・ねらい

本校の児童はアンケート結果や日々の様子から、生活の中で多くの「食」に触れている。しかし、「食」ではなく「食べる」という行為に多くの意識が向いている。目指す児童像である「さいたましの子」《さ：三食しっかり食べる子・い：いっしょに楽しく食べる子・た：確かな目をもって食べる子・ま：まごころに感謝して食べる子・し：食文化や地の物を伝え合い食べる子》の育成のために「食べる」という行為に加え、「三食しっかりと食べるとは?」「楽しく食べるとは?」等の、「食」に付随する様々な観点にも目を向け「食」全体を見つめ直す。新たな知識を得たり、新たな経験を重ねたりするその過程で「食」と「自分自身」とのつながりに気づき、「食」について、もっと知りたい、実践したいという興味や関心が高まり目指す児童を育成できると考え食育の研究に取り組んだ。

■活動内容

- 食に関する授業の実践
特別活動 生活科 特別の教科 道徳 総合的な学習の時間
- 委員会による実践
栽培委員会によるヨーロッパ野菜の栽培
新聞委員会による旬の食べ物等の記事作成
給食委員会による好き嫌いをなくす動画の作成
- シェフ給食の実践
シェフ考案によるオリジナルメニュー給食の提供 シェフとの交流
- 給食について考える給食週間の実践
全学年において給食標語の作成 セレクト給食の実施
- 栄養教諭の取り組み
給食試食会の実施 「しょくいくだより」の発行
郷土料理や人気メニューのレシピ公開 食育掲示の作成



■成果

アンケート結果より

- ・さ：三食しっかり食べる子→85%の児童が肯定的な回答をしていた。
- ・い：いっしょに楽しく食べる子→80%の児童が肯定的な回答をしていた。
- ・た：確かな目をもって食べる子→74%の児童が肯定的な回答をしていた。
- ・ま：まごころに感謝して食べる子→60%の児童が肯定的な回答をしていた。
- ・し：食文化や地の物を伝え合い食べる子→57%の児童が肯定的な回答をしていた。
- どの学年も授業等において、手立てを取り入れやすかった「さ・い・た」の観点では肯定的な回答が多かった。
- 「ま」の観点では学校として数値は低いですが、手立てを取り入れ活動ができた高学年に対称をしぼると86%の児童が肯定的な回答をしていた。
- 日常生活の様子から
- 「バランスの良い食事」の学習を通じて三食しっかり食べることの意識付けができた。また、バランスよく食べること自体の難しさも知ることができた。
- 楽しく食べるためには、食事中的話題や声の大きさ等の相手への配慮も必要となることを意識できるようになった。
- 旬の野菜について学ぶことで野菜を育てたり食べたりすることに関心をもてた。
- 飢餓、食糧自給率、フードロスの観点で世界の食糧事情を調べることで、多くの新たな知識を得るとともに、そこから食糧事情に関する更なる問題意識をもつことができた。
- 様々な掲示物から食文化についての理解を深めることができた。
- 意識や関心の高まりを維持するための教師からの働きかけや家庭の協力等が必要となる。